

下子讀義徳園集

三

特
遠
1857
3



門八通3
1857
3

湯屋

湯屋

下
漢源融聞集卷之三



湯屋
湯屋
湯屋

川竹軒 撰

空明夕烟軟對月秋江裏歷々沙上人月中孤

渡水と明く先て夜毎に踏次をほくくと。

達者教なり橋殿通下はほくくと此漢教を云

仕也い。停勢物活本又漢漢と。市燈と張習と

下
漢源融聞集卷之三

八移やくす人が融て其う一一夜もも知道朝
 後ぞ産産試し勅し評判がもびらり。是ハはねも海
 うふく遠入ふほどに航ともぬ大入速ト
 其中に見老かまて出もせぬ款と一ツ一ツ
 一しらも夜あち残つ。業平東下の所で
 日夜りはと。し一一男ありすも。其男男と
 えらるれよよ思ひも一し。京にとめらり。

東乃くこに位之國もめにとて行きり。
 友とする人も一りぬらりして行きり。
 三河乃國八橋とし一一亦よも一ぬ後と八橋と
 以ひけら。水行川乃くもぞもれ。橋試ハツもこ
 ぞらにしりてあん八橋ともいも言り。主次の色
 乃本陰よおりわてがれしくい言り。其次よ
 枯みも一面白く笑もり。ろもことえんて或人。

三言事野間集卷八
 三三

乃な之のく。かきけしかきししんんふふままとと。自みづかららに
 すすて。旅たび乃なりり。海うみととまま。ししひひけけまま。後あとる
 々々衣ころもささははくく。ああらら。ははまま。ああままはは
 心こころくくききぬぬるる。旅たびととししらら。松まつよよ
 と。ああらら。けけまま。皆みな人ひと。かかまま。ららのの上うへにに。みみどど
 我われ松まつくく。ししほほとと。むむまま。ききりり。ゆゆててけけ秋あきとと。佛ぶつ借かり
 解とららりりとと。人ひとくく。ほほらら。社しゃとと。ななりり。今いま世よ
 三

上うへにに。佛ぶつ借かりとと。ややりりてて。佛ぶつ名なしし。志しををううにに。けけごごとと。
 其その心こころををくく。らら。疎そ略りやくにに。らら。我われもも。先せん生せい乃な。佛ぶつ
 一ひと事ことととももとと。因よるる。ららにに。又また佛ぶつ借かりのの二ふた字じ
 一ひと。滑くわ替げにに。本もとにに。くく。所ところにに。又また古ふる今いま集しゅうにに。佛ぶつのの
 字じとと用もちひひ。ああらら。とと。和わ秋あき乃な。古ふる実まこと乃な。らら。ありあり。八や雲うみ
 亦また抄しょうにに。佛ぶつ借かり。まま。とと。佛ぶつ借かりのの支し抄しょうありあり。志しらら
 心こころくく。いいよよ。古ふる人ひと乃な。とと。今いま其その水みづ上うへとと。乃なりり
 三

るに俳諧と相款乃ぶれと。其の如く。ぬすむる
 的^{あま}けし。しよもバ俳諧に連款といふ。さうは
 なるに中興松永長頰丸貞徳翁にむつよし。俳
 諧よ玄壇乃控と。まうは。あせふい
 せぬ人もあ。又ふいする者とも。或
 俳翁乃謂まうをすう者もせぬもの。名
 ういよバ。俳諧作し思ふ。然もども。昔世乃

俳諧ハ点取俳諧とて。あつは安の物り。目外と
 玄ん本屋乃廓。用事あつておまう。は。ま
 立流を有む。底が来て。就田川とや。就田中
 や。盗人にとあ。ず。俳事なりと。求らう
 と。見よ。は。後点と。ふり。いよ用る。あ。あ。り。
 俳書。あ。ま。で。世。極。よ。利。口。あ。は。り。う。い。趣。向
 をして。出。と。し。俳。諧。と。さ。う。い。ふ。は。た。の。と

心ゆりや。芝居乃役者とぞ。俳名と付て。俳諧
 と下他よればし。近きん心じんと。役者やくしや評判ひやうばん記きに。人
 程けい思しが。ぞ。志しての。痴ち冥めいが。か。り。志しての。し。俳名はいなと。
 六ろく名な傳でん七しち名な衆しゆと。ゆ。り。公こう易えいく。心しんし。せ。り。
 心しんづ。つ。て。し。ず。る。に。い。て。中ちゆう信づめる。役やくよ。る。と。
 私わがと。け。る。な。り。り。こ。ご。り。て。冷れい飯はんと。改かい名ない。り。
 ま。し。こ。心しんけ。ぬ。役やくと。死しこ。ら。り。に。事こと。う。こ。

腹はらと。又また仲なつ回まわ乃の着ちやく性しやうに。も。る。替か名なと。思おもて
 ば。中ちゆうと。ら。り。小こ回まわ物ぶつを。此こゝ名なむ。者ものが。在あら。む。と。
 心しん。れ。い。扇あふと。何なにや。乃の役やくと。書かく
 り。心しん。を。理り張ていが。本ほんと。し。心しん筆ひつと。
 遠とほひ。と。ざ。り。ゆ。を。ぬ。心しん説せつと。こ。も。い。て。心しんせ。り
 と。太たいこ。に。志しり。ゆ。と。け。柳やなぎと。事ことと。ん。と。
 俳名はいなよ。ら。り。い。と。あ。り。な。り。い。役者やくしや亡なし。

俳諧集 卷之三



なる中へ。俳号に於て俳席へ出まると。俳人
 なり。是れ人乃批判ありん。没者よ。俳諧
 する中へ。俳教とあり。又亡八は。俳諧するが
 事とあり。所も。没者評判記あり
 せよ。其業乃事といひ。没者ををく。や
 亡八は。亡八あり。夫と。亡八の。今
 度。中も。肝に。賣香が。あり。

参り。中も。俳名とあり。に。答なり
 定て。没者乃。中。俳諧に。達人とあり。を
 中。没者。中。俳名あり。せめて。没者
 乃。中。俳名あり。外。名。俳
 中。俳名あり。中。俳名あり。和歌乃。流
 中。俳名あり。中。俳名あり。中。俳名あり。

是よりかきみ乃知道斬漢楚軍漢馬鹿
乃初とて援にやけり等と。育と下る
まハ知道斬けりむ顔色して育に居り
係乃ぬま物とトニくく。扱夜前よりや
と漢楚軍漢今むんと和らぬと育と下る
まとけりぬやぬせり。先いけもは
ひなりや。趙高と子婿氣者なり。た乃ま

が威をぬきよとして。鹿とるにむ理よと云せて。
を鹿が。始終馬乃代りけりぬ。と二世皇
帝とぬきよ。育と下る。と育と下る。と育と下る。
其後目を渡して。今に育と下る。育と下る。
家前近下後の。窮けり。を。と育と下る。
女帝賞乃形が。ぬきよ。ぬ探芝居乃。足けり
のやうに。ぬきよ。ぬ探芝居乃。足けり

下手談義集 卷之三

と萩^よ若^な海^なぐにぬ^ととあり。天^あ窓^まを電^{でん}光^{くわう}り
 う^う望^{ぼう}望^{ぼう}好^{こう}やぐと光^{くわう}らせ申^{まう}拔^{はく}草^{そう}履^{りふ}で裾^{すそ}引^ひ
 摺^すてありく。げ申^{まう}拔^{はく}草^{そう}履^{りふ}とつた^{つた}。歴^{れき}く乃^の
 此^こ方^{かた}柳^{りゅう}乃^のはく^{はく}死^しをさう^{さう}く^く。又^{また}ハ^ハ持^{もち}草^{そう}履^{りふ}はく^{はく}
 と^と拍^{はく}と^と賤^{せん}乃^のされ^{され}と^と足^{あし}はく^{はく}を^をや^やり^りと^とあり^{あり}
 へ^へけ^けハ^ハ何^{なに}が^が軸^{じく}乃^のや^やう^うに^に急^{いそ}よ^よか^から^らと^とも^も搦^なん^んば
 いう^{いう}は^は貴^きせん^{せん}。下^げ走^{そう}り^りる^る物^{もの}を^をれ^れら^らと^と換^か徳^{とく}と

を^を露^ろえ^えぬ^ぬ。う^うも^もハ^ハ免^{めん}も^もあ^あも^も下^{した}ぐ^ぐで^でう^うく^くご^ご
 物^{もの}は^はあ^あく^くど^ど。近^{ちか}頃^{ころ}ハ^ハま^まく^くと^と猶^{なほ}と^と志^しや^やく^くと^と。濟^か
 納^{なん}戸^ど柔^{じやう}くと。女^{にょ}中^{ちゆう}も^も紅^{こう}表^{へい}は^はき^きて^て着^きる^るれ^れは^は
 毛^けあり。但^{たゞ}一^{いつ}紅^{こう}く^くと^と。女^{にょ}く^くは^はく^くは^はく^く乃^の本^{ほん}綿^{めん}
 乃^の草^{そう}物^{ぶつ}は^はく^くで^で納^{なん}戸^ど柔^{じやう}と^と好^{こう}ん^んで^で我^{われ}と^と人^{ひと}
 ぐ^ぐあ^あめ^め。な^なま^まあ^あく^くら^らけ^け氣^き乃^のぐ^ぐと^と熱^{ねつ}
 て^て今^{いま}も^もえ^えく^く物^{もの}と^とい^いま^まの^のや^やう^うに^にあ^あら^ら。

下三言義集 卷之三

あひくらひひ形と。いさよのなごす。す。い。こ
 してよせれと。ね。よ。ま。さ。が。あ。ま。り。六。ま。れ。物。と。
 多。く。に。深。と。好。し。と。嬌。氣。を。事。但。一。木。綿
 そ。の。も。い。れ。差。よ。減。る。う。ハ。志。ぬ。が。こ。を。物。り
 う。ま。は。は。こ。中。に。と。之。理。よ。人。が。く。他。る。若。い。を
 乃。衣。附。り。り。黒。羽。二。重。に。納。戸。柔。乃。ら。く。れ
 は。お。と。ほ。ら。く。と。ら。小。神。よ。お。の。ど。又。乃。綿。入

羽織を中ふと。う。礼。一。色。ま。ん。に。羊。衣。色。に
 成。と。物。と。差。け。け。漸。く。夏。夜。装。と。取。附。け
 ハ。黒。ら。り。り。ん。此。羽。織。一。つ。と。蜀。紅。乃。あ。と。と。い。ひ。
 肩。乃。け。け。ら。も。も。差。あ。ぐ。磨。く。此。花。と。同。ト
 や。う。に。も。磨。け。く。し。て。ま。は。は。と。と。桶。娘。せ。り
 威。び。と。志。ぐ。く。は。り。り。サ。理。之。折。よ。女。弟。と。心。中
 あ。い。は。は。は。り。も。業。と。さ。ら。其。中。ふ。と。ま。た。と

下三詩集野田集 卷之三

子然ハ扱あつかくこささななくくいいややーーひひ者者でできき分分
 けけううどどきき分分みみ屋屋がが遊遊ぶぶとと仕仕ささぐぐりりはは残残るる先先
 ありありトトシシくく頬頬とと嘗嘗たたるるすするる所所女女弟弟ががアアノノ
 容容態態ハハ武武たたううととささくくととびびけけりりーー所所残残
 縮縮めめてていいややぐぐるるううららいいとと難難とと味味唱唱者者莫莫すすまま
 ばばををれれ武武たたととううららいいととななるる形形者者乃乃扱扱のの
 口口どどららいいとといいややぐぐるる傾傾城城ハハ限限ららばば野野郎郎

ちちががいいああ〜〜いいややぐぐるるままややううにに思思ううららううとと
 因因果果のの事事チチトト廿廿六六夜夜とと伝伝へへるるままはは能能いい
 何何ががいいけけととせせぬぬううあありり婦婦ととううららいいととううここ後後とと
 喰喰ひひかかぶぶとと。精精力力でで見見るる。其其所所ででととすするる
 ををもも生生絹絹のの中中とと目目ももをを被被るる。強強封封紙紙
 よよ治治けけるるううららいい山山寺寺乃乃ややとと流流ぬぬとと。武武たたうう
 扱扱川川ありあり。先先中中一一野野書書乃乃根根元元麻麻のの武武たた

二二二



うらぐらぐめて此事。いふは不自由なれどして。
 志のいへせむにどううねし。海ありあうび
 やうらありそふあふの志う。氏士乃極さん
 と和らぐる此同利で。ぬきけて極るまでござ
 りふ又町人乃やうよ。免うくといくと。養ら
 るれば。換のやくと。撞もど。はひひ捨ると大
 婦翁トシく。極淨るりといふ。江戸淨福

瑤土佐婦と姑とて。外記。才太吏河東に
 至るまで。かといふ。ななく。堆さ。北方乃
 沖耳へ入ても。なるほど。賤く。ぬ婦。海。
 中具上方より。義太吏婦。とらふと。海に
 おし。今專に戸おして。しんやるが。是を才一
 文句とよく。他より。物。仁義。狀。教。忘。を。た。し。
 大冊に。か。し。海。子。他。より。文。く。よ。婦。と。附。て。

三言集罪問集 卷之三

今三ヶの津探芝石と皆世傳るりいどい傳り。
 又ま後豊はそりり下伝を傳りり式傳り
 出し酒をり橋拾む酒でうわつ松かん易ひ
 物一にけ。文句合とそい中一ととり事
 が仁義釈教忘世常と持ありゆと叶い伝。
 儀紙口又投へ伝と事と入る。志も江戸津廻
 環の中や。徳本此中う空で。世理を傳り。
 〇七五

文句とくどいさうあり勢るとい伝であぬ
 が。口とま。い。うもが。あ。あ。人の氣。う。は。ま
 めでと。う。と。傳。り。と。伝。ふ。世。と。成。
 け中と。う。歴。く。れ。息。子。が。下。の。法。議。で。と
 漢も。う。知。ぬ。が。古。伝。傳。と。傳。あ。し。と。誓。古
 一。吉原。は。何。が。傳。り。あ。し。た。ま。と。女。弟。が
 以。よ。ハ。あ。す。ハ。乞。食。乃。志。似。成。せ。ど。も。傳。人の

下三言集 卷之三 〇七五

清るりと清て聞せかさんせ。一口にひはぬ
 と。去佐清をも念むくろ。清るもの成
 と。せうと今とうとせらぐひせう事と
 みのめで口たろト。シく又る麻ら一は
 金奥何ぬ者じうハ金奥をくうまのを。
 めづーひ物とれは。今をぬくこと事
 事が。養乃圍ひもの。これ目を持たが

となり。且ぬ友がれお。やうに遊とこと
 子子乃世話。も持物下首。けし子子
 取て。いと。何が日中。にじご。ひ。照け
 られて。び。く。ま。う。そ。の。涼。は。ぬ。や
 左儀中。小言。あ。け。で。肉。ゆ。又。賣。人。の。子。乃
 外。金。の。け。す。る。げ。あ。ま。し。乱。出。お。ん。の。と。候
 け。子。と。ぬ。や。し。も。や。ど。れ。價。は。成。る。事。と。し

三言集 卷之三

歴（れき）くの（しよ）前（まへ）も。賣（う）まら（る）と（し）り（れ）一（いつ）群（ぐん）小（せう）鳥（てう）相（あ）ひ
 者（もの）も。馬（ば）麻（ま）乃（の）初（はつ）日（じつ）遠（とほ）入（い）て（お）も（と）ど。き（こ）ハ（ま）ま（ど）
 多（おほ）く（く）数（かず）多（おほ）し（し）抽（ひ）也（や）た（ら）う（み）み（お）と（成）ぶ（ら）ま（ど）
 と（生）と（ら）る（め）て。目（め）成（じやう）収（しゆ）を（す）る（れ）右（みぎ）張（は）乃（の）
 以（も）つ（ら）あ（の）一（し）も。金（かね）奥（おく）何（なに）者（もの）と。秤（はかり）は（を）ら（う）
 日（ひ）ト（は）り（て）合（あ）で（は）り（ら）う（う）又（また）遮（しや）邏（ら）雜（ざ）と（し）ら（う）
 雜（ざ）と（し）何（なに）も（も）麻（ま）者（もの）あり。禁（きん）庭（てい）に（も）上（か）巳（し）乃

所（しよ）規（ぎ）式（しき）に（と）雜（ざ）合（あ）と（し）ら（う）事（こと）あり。美（み）と（結）お
 お遠（とほ）して。江戸（えど）一（いつ）橋（はし）川（がわ）か（ど）。相（あ）撲（ぶ）取（り）乃（の）や（う）に
 名（な）減（げん）け（い）。一（いつ）月（げつ）は（何）度（ど）と。會（かい）日（じつ）が（換）つ（て）。今（いま）日（じつ）
 漢（かん）字（じ）の（後）日（じつ）ハ（本）所（しよ）と。會（かい）料（りやう）と（持）来（き）して。就（しゆ）
 合（あ）す（る）。そ（の）人（ひと）相（あ）ひ（し）乃（の）材（ざい）と。あ（の）ト（は）に（被）か（へ）
 角（かく）お（髪）が（ま）ど（も）。歴（れき）く（ら）前（まへ）も（も）同（おな）一（いつ）や（う）に。
 彼（か）乃（の）遮（しや）邏（ら）雜（ざ）と（し）り（て）行（ゆ）く。相（あ）撲（ぶ）合（あ）す（る）と

三言集 卷之三

何があ方で。惡神やら齒ごうしや。伸よひて
 兎物する。其じごあ〜。古儀場として專とせ
 へく圍ひきて。も申で喰ひ合ひ血みぢら
 ぐひは成してけりごと。一方が迎あ〜。候よおれ
 ば。ぞつや負こと。負と鶴と。海うを投て。もふ
 其雜ら何死乃會も。出さぬ〜。さりとは
 嬌氣れせんさく。何よ〜。勝負事一も負

けぬものつあ。負〜として。夾紙捨るといふ
 へ。座〜。先度〜。二百文で貫ひけ
 〜。雜と會よ。あ〜。負〜。捨て
 仕包〜。流があら。けやう。事〜。合ひけ
 する者〜。捨る雜と貫。て。蹴ん。蹴り
 好〜。志列あり。て。流分。ぬやう。け
 ら〜。賣して。口。す。ハ。沖。高。地。乃。繁。花。也。

三才圖會 卷之三



三言集 卷之三

先漢楚軍後馬廐乃本文ウんく此こゝをとトトニ

表おもてをトトニの拍子ひょうし本もとは。そとやは跡あとハのと

いのを乃面おもてには。おのむやら。おのむやら。

どろく路次つぎとぐ。出いでせれ



下したに漢議儀徳徳園園集集を之三三終終



